

# むかわ町地域主体の一体的な森林づくり

～間伐コスト縮減に向けた取り組み～

胆振東部森林管理署

## 現状・課題・目的

森林づくり協定に基づき、流域が一体となった森林の整備・管理、森林資源の循環利用及び木育の推進を目的に様々な取組を進めている。

地域の間伐は、路網が無いこと、面積が小規模なことや林分蓄積が少ないことなどの理由で伐採が困難な造林地が多数あり、今後の取り扱いが課題となっている。

このため、作業地の集約化などによる低コストな森林づくりを目的に、各種の取組を進めている。

## これまでの取組内容と成果

### 民国システム販売の実施

むかわ町との森林共同施業団地において、国有林材を2,060 m<sup>3</sup>、町有林材を450 m<sup>3</sup>の集約化した間伐を実施した結果、170千円の経費節減となった。

### 施業勉強会の実施

地元市町担当職員を対象とした山の見方や調査の仕方について勉強会を実施、「未整備森林への対応」「再造林予算確保」など直面する課題の把握に繋がった。

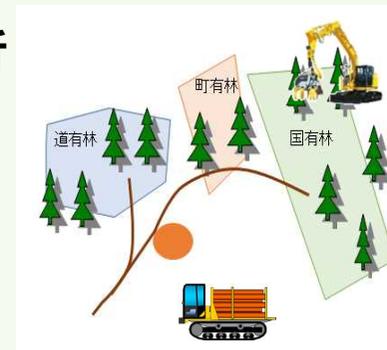
### 様々な取組の推進に向けて

地域と連携した、エゾシカ捕獲、山火事消火訓練、安全パトロール、森林づくり協定HPの作成などの各種活動を実施する中で、実行体制や仕組みの整備が進んだ。

## H30年度の取組内容

### ① 民国連携システム販売結果の分析

今年度選定した販売箇所（H30・31）においては、ロットの拡大及び施業の集約化等のメリットにより、道有林においては、前年度までの単独で販売を行っていた物件単価と対比した結果、好条件での買受希望単価が需用者より提示された。



### ② 森林整備の推進に向けた課題の検討

「未間伐林の取扱方法」、「皆伐後に安価で植栽する手法」などの地域の課題が提起されたことを踏まえ。

「森林管理経営法」が平成31年4月1日に施行されることから、国有林としては、林況に合わせた間伐の方法や低コストでの植栽方法などの情報提供を実施することを検討した。

なお、平成30年度胆振地域林政連絡会議において、主伐期に達する森林について、更新伐（複層林への誘導）の検討や、一貫作業システムや大型機械地拵、下刈の省略などの低コストな施業の手法について、国有林の事例を紹介したが、道有林（胆振地域）では実践に向けた検討段階であり、今後も情報交換を行うこととした。



## 今年度の取り組みで目指すところ

○民国連携システム販売箇所を選定し、事業地の集約化を図り、土場や路網の共有等により、間伐の効率化やコストの縮減を目指す。

また、今後は林地未利用材等の出材した材種や出材量などの情報収集等についての意見交換を実施する。

## 今後の目標

集約化による効率的で低コストな間伐の実践と低コストな施業の普及